

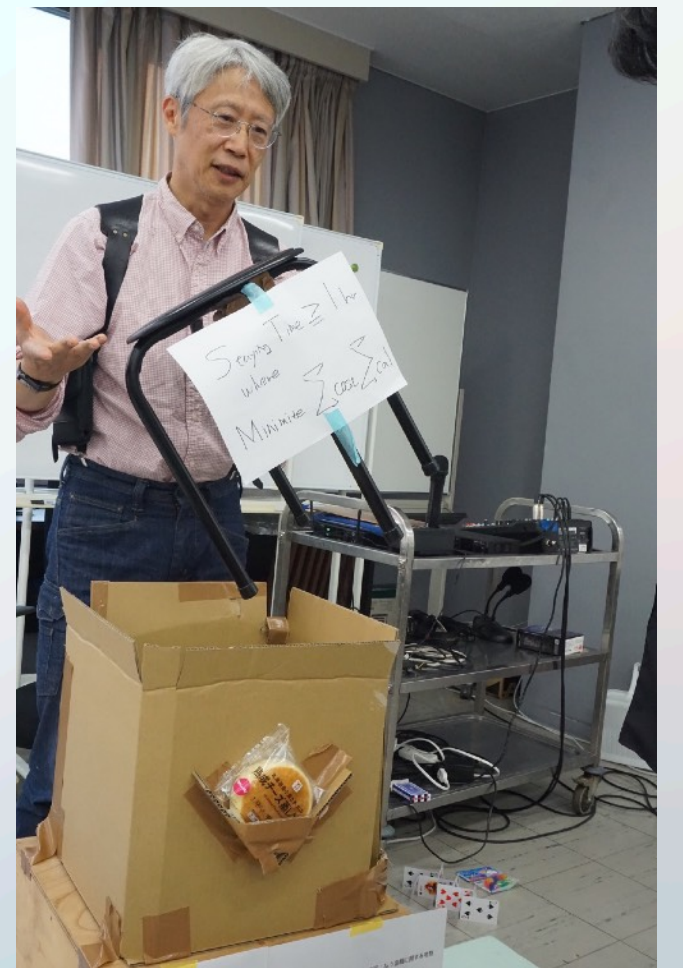
山梨県立大学 SPARC事業における 履修証明プログラム

～現場変革に関するリカレント・リスキリング教育～

実績：2024年度プロトタイプの成功

本提案は、2024年11月に実施したプログラムの成功をもとに、DXヒューマンサービス士プログラムを再設計

- イベント名：『複雑さを捉える——感覚で探る人類学的リサーチとデザイン』
- 形式：2泊3日の合宿形式（甲府市にて開催）
- 実績：
 - 参加費6万円にも関わらず、定員を上回る18名の意欲的な社会人が参加
 - 参加者アンケートでは、極めて高い満足度を獲得
 - 「久々におもしろい体験だった」「すばらしい体験だった」との声多数



「地域フィールド・カタリスト」養成プログラム

～あらゆる現場の内側から、変革を触発する～

【いま、地域に求められる人材とは？】

- 複雑化する地域課題

- 人口減少、産業構造の変化、価値観の多様化...
- 既存の分野や組織の枠組みだけでは解決困難な課題が増加

- 「正解」のない時代の現場変革

- 必要なのは、与えられた課題を解決する力だけではない
- 現場の状況を観察し、本質的な問いを立て、新たな価値を創造する力

- 求められるのは、現場の内側から変革を触発する「触媒」のような存在

あらゆる「現場（フィールド）」において、その場の複雑な現実を解きほぐし、内側から持続的な変化を「触発（カタライズ）」する人材

- **フィールド**：企業、行政、NPO、福祉施設、教育現場、地域コミュニティなど、人々が協働するあらゆる「現場」
- **カタリスト（触媒）**：答えを与えるのではなく、多様な人々を巻き込み、対話と創造の化学反応を促す存在

コンセプト：地域のあらゆる現場を変革する（Field Transformation）

- 「**人類学者の眼**」
 - 思い込みを捨て、五感を使って現場の複雑さをありのままに捉える
- 「**デザイナーの手**」
 - 観察から得た気づきを、具体的なアイデアや物語として形にする
- 「**ファシリテーターの心**」
 - 現場の当事者が主役となり、共創のプロセスを導く
- 「**DXとデータサイエンス**」
 - 社会実装の仕方、意義について理解した上でのDX化を推進する

当初企画との比較

	当初の企画「DXヒューマンサービス士」	現在の新企画「地域フィールド・カタリスト」
基本コンセプト	専門分野×DX 特定分野の課題をDXで解決する	あらゆる現場×変革×DX 分野を問わず、サービス現場の変革をDXで加速・拡張する
育成する人材像	専門分野のDX専門職	DXを駆使する現場変革の触媒者（カタリスト）
DXの位置づけ	解決策（ソリューションとしての技術活用）	思考と実践（ツールの導入や操作に限らない）

プログラム案

ステップ1. 現場変革のためのフィールド合宿（科目案：観察とプロトタイピング合宿）

集中合宿形式で、フィールドワークを通じた「観察」、気づきを形にする「表現」、対話による「講評」のサイクルを実践。変革の起点となる思考法を体得する。

ステップ2. 現場を可視化する（科目案：マルチアングル分析の手法＊）

質的アプローチ（参与観察、インタビュー）と量的アプローチ（データ分析）を学び、現場を多角的に分析・説明する能力を養う。

ステップ3. 変革をデザインする（科目案：リーダーシップとファシリテーション＊）

変化の過程で生じる葛藤を乗り越えるチェンジ・マネジメントや、チームの創造性を引き出すワークショップデザインの技術を習得する。

ステップ4. 変革のツールを使いこなす（科目案：地域資源とデジタル戦略＊）

サービスデザイン思考や、現場での実装手法を学び、DXを手段として課題解決に活かす能力を養う。

＊部分的なオンラインやオンデマンドの活用を検討

今後の展開と展望

• 2025年度の計画

- 「山梨の価値の再発見」をテーマに、より地域に根ざしたプログラムを実施
- 富士吉田市や富士河口湖町など、具体的な課題を持つ地域でのフィールドワークを計画
- 引き続き多様な外部パートナーとの連携を強化

• プログラムの将来像

- 修了生によるコミュニティを形成し、分野を越えた協働プロジェクトを創出
- 県内企業や自治体との連携を深め、県内履修者の増加に繋げる
- DX分野に関しては山梨大学との連携をより高度に進展させる